



令和5年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和4年10月31日

上場会社名 東海旅客鉄道株式会社
コード番号 9022 URL <https://jr-central.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金子 慎

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員広報部長 (氏名) 木村 中

TEL 052-564-2549

四半期報告書提出予定日 令和4年11月9日

配当支払開始予定日

令和4年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第2四半期の連結業績(令和4年4月1日～令和4年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第2四半期	634,139	63.9	171,926		136,290		96,949	
4年3月期第2四半期	386,949	14.5	34,103		67,090		44,455	

(注) 包括利益 5年3月期第2四半期 92,549百万円 (%) 4年3月期第2四半期 45,572百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第2四半期	492.63	
4年3月期第2四半期	225.89	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年3月期第2四半期	9,460,921	3,688,904	38.5
4年3月期	9,450,519	3,609,252	37.7

(参考) 自己資本 5年3月期第2四半期 3,643,186百万円 4年3月期 3,564,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
4年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
5年3月期		65.00		65.00	130.00
5年3月期(予想)				65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の連結業績予想(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,332,000	42.4	279,000		208,000		141,000		716.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年3月期2Q	206,000,000 株	4年3月期	206,000,000 株
期末自己株式数	5年3月期2Q	9,200,851 株	4年3月期	9,200,851 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年3月期2Q	196,799,149 株	4年3月期2Q	196,796,048 株

(注) 期中平均株式数の計算において控除する自己株式には、株式給付信託(従業員持株会処分型)にかかる信託口が保有する当社株式を含めていません(5年3月期2Q - 株、4年3月期2Q 3,126 株)。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び計画に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等によって予想数値と異なる場合があります。
2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載することとしています。また、令和4年11月1日開催予定のアナリスト向け説明会で使用する資料についても、TDnet及び当社ホームページに掲載する予定です。

(参考)

令和5年3月期の個別業績予想（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,084,000	49.3	265,000	—	193,000	—	132,000	—	670.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結貸借対照表関係)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい経営環境が続く中、当社グループは、感染拡大防止に取り組みながら、事業の中核である鉄道事業における安全・安定輸送の確保を最優先に、サービスの一層の充実、社員の業務遂行能力の向上、設備の強化に取り組みました。また、これまでも不断に取り組んできた設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化を一層強化するとともに、安全・安定輸送の確保や輸送サービスの提供に支障しないことを前提に、可能な限りの費用削減を行いました。さらに、効率的な業務執行体制を構築することで10～15年かけて定常的なコストを単体で800億円削減する「業務改革」を推進するとともに、新しい発想により「収益の拡大」を実現することに挑戦し、経営体力の再強化に取り組みました。

東海道新幹線については、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行いました。また、引き続き大規模改修工事や脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策を推進するとともに、新型車両N700Sの追加投入及び既存のN700Aタイプに対してN700Sの一部機能を追加する改造工事を進めました。

在来線についても、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行うとともに、7月には「ひだ」でハイブリッド方式の新型特急車両HC85系の営業運転を開始しました。また、名古屋車両区検修庫の建替や高架橋柱の耐震化等の地震対策、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくため、九州新幹線区間へのサービスエリア延伸等の取組みを実施しました。また、ご利用拡大に向けた取組みとして、「定番」から時間、場所、旅先での移動手段や行動をずらした新しい旅として提案している「ずらし旅」とともに、ご自身の「推し」に会いに行く「推し旅」を各種事業者と協力し、新しい内容にアップデートして提案するキャンペーン「推し旅アップデート」を展開するなど、魅力ある旅行商品等を販売しました。さらに、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始しました。加えて、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入したほか、半個室タイプのビジネスコーナーを全ての「のぞみ」停車駅に設置するなど、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組みました。

超電導磁気浮上式鉄道（以下「超電導リニア」という。）による中央新幹線については、工事実施計画の認可を受けた品川・名古屋間について、用地取得等を進めるとともに、工事については、新たに岐阜県駅（仮称）等で本格的な工事に着手したほか、南アルプストンネル長野工区では本坑の掘削を開始するなど、沿線各地で着実に工事を進めました。引き続き、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視し、コストを十分に精査しつつ、各種工事を着実に進めます。

なお、南アルプストンネル静岡工区においては、静岡県等の理解が得られず、トンネル掘削工事に着手できない状態が続いています。こうした中、大井川の水資源への影響について、国土交通省の「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」が昨年12月に取りまとめた「大井川水資源問題に関する中間報告」を踏まえて、工事の一定期間、例外的に県外へ流出するトンネル湧水量と同量が大井川に戻す方策の検討を進め、4月以降、静岡県等に説明しています。あわせて、大井川の水資源に関する今後の取組みや地域への説明に活かすため、7月に意見・質問をお寄せいただく取組みを開始しました。また、南アルプスの生態系等の環境保全については、6月から有識者会議において議論が進められています。引き続き、地域の理解と協力を得られるよう、真摯に対応していきます。

一方、超電導リニア技術については、高温超電導磁石の営業線への投入に向けて、山梨リニア実験線における走行試験と小牧研究施設における検証を実施するなど、さらなるブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のより一層のコストダウンに取り組みました。また、中央新幹線の開業に向けて期待感を醸成するため、改良型試験車による超電導リニアの体験乗車を実施しました。

海外における高速鉄道プロジェクトへの取組みについては、米国における高速鉄道プロジェクトについて引き続き着実に取り組んだほか、台湾高速鉄道に対する技術コンサルティングを進めました。また、日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを推進しました。

鉄道以外の事業については、JRセントラルタワーズと開業5周年を迎えたJRゲートタワーを一体的に運営し、収益の拡大を図りました。また、「東京駅一番街」等の駅商業施設のリニューアルに向けた準備を進めるとともに高架下開発を行うなど、競争力、販売力の強化に努めました。さらに、当社グループの駅商業施設で利用できる共通ポイントサービス「TOKAI STATION POINT」の令和5年10月の開始に向けて、計画的に準備を進めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における全体の輸送実績(輸送人キロ)は、前年同期比75.6%増の228億8千2百万人キロとなりました。また、営業収益は前年同期比63.9%増の6,341億円、経常利益は1,362億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は969億円となりました。

当期の中間配当金については、4月に公表した配当予想のとおり、1株当たり65円とさせていただきます。

これをセグメントごとに示すと次のとおりです。

① 運輸業

東海道新幹線については、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行いました。また、土木構造物の健全性の維持・向上を図るため、不断のコストダウンを重ねながら大規模改修工事を着実に進めるとともに、地震対策については、脱線防止ガードの敷設を進めるなど、東海道新幹線全線を対象にした脱線・逸脱防止対策に取り組んだほか、鉄道設備の浸水対策について、ハザードマップ等を踏まえて進めました。さらに、車椅子スペースを6席設置したN700Sの投入を進めるとともに、一部の車椅子対応座席における「エクスプレス予約」及び「スマートEX」での予約の試行を実施しました。また、引き続き新型車両N700Sの追加投入及び既存のN700Aタイプに対してN700Sの一部機能を追加する改造工事を進めました。加えて、可動柵について新大阪駅20番線ホームへの設置工事を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

在来線についても、東海道新幹線同様、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行いました。また、名古屋車両区検修庫の建替や高架橋柱の耐震化等の地震対策を引き続き進めるとともに、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。さらに、3月に営業運転を開始した新形式の通勤型電車315系の追加投入に向けた諸準備を進めたほか、7月には「ひだ」でハイブリッド方式の新型特急車両HC85系の営業運転を開始しました。加えて、可動柵について、名古屋駅東海道本線下りホームへの設置工事やQRコードを利用したホーム可動柵開閉システムの導入に向けた準備を行いました。内方線付き点状ブロックについては、整備対象を乗降1千人以上の駅に拡大して取替を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

新幹線・在来線共通の取組みとしては、自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に対応すべく実践的な訓練等を実施しました。また、地震対策として、駅の吊り天井の脱落防止対策を進めるとともに、駅のプラットホーム上家の耐震補強工事を実施しました。

営業施策については、「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくため、九州新幹線区間へのサービスエリア延伸等の取組みを実施しました。また、令和5年秋に予定している、新幹線とともにホテルや観光プラン等、ご旅行全体をシームレスに予約・決済いただける新サービス「EX-MaaS(仮称)」の開始に向けた諸準備を着実に進めるとともに、「エクスプレス予約」及び「スマートEX」の画面から沿線のホテル等の各種コンテンツにリンクするポータルサイト「EX 旅のコンテンツポータル」について、旅の目的となるコンテンツを充実させました。さらに、今後のご利用拡大に向け、これからの新しい旅として提案している「ずらし旅」や「押し旅アップデート」について、特設サイトやTwitterアカウントにて発信するとともに、

沿線自治体や各種事業者と連携しながら、魅力ある旅行商品等を販売しました。また、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始したほか、京都、東京、飛騨等の観光資源を活用した各種キャンペーンの展開を行いました。さらに、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入したほか、半個室タイプのビジネスコーナーを全ての「のぞみ」停車駅に設置するなど、お客様のワークスタイルに応じた移動時間をお過ごしいただけるよう、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組みました。

当第2四半期連結累計期間における輸送実績(輸送人キロ)は、東海道新幹線は前年同期比96.3%増の190億1千7百万人キロ、在来線は前年同期比15.6%増の38億6千5百万人キロとなりました。

バス事業においては、感染拡大防止に取り組みながら、安全の確保を最優先として顧客ニーズを踏まえた商品設定を行い、収益の確保に努めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比77.4%増の5,145億円、営業利益は1,605億円となりました。

② 流通業

流通業においては、「ジェイアール名古屋タカシマヤ」と開業5周年を迎えた「タカシマヤ ゲートタワーモール」において、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開するとともに、イオンモール岡崎に食料品売場を出店するなど、収益力の強化に努めました。また、駅やホテルの人気商品やオリジナル鉄道グッズ等を取り揃えた多彩なオンラインショップが集う新ショッピングサイト「JR東海 MARKET」では、「のぞみ」号が運行開始30周年を迎えたことを記念した商品のほか、引退した新幹線車両のアルミニウムを再利用した「新幹線再生アルミ」を用いた商品を新たに販売するなど、商品力の強化に取り組みました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比41.5%増の636億円、営業利益は26億円となりました。

③ 不動産業

不動産業においては、JRゲートタワーにおいて開業5周年をテーマに様々な企画を開催したほか、「東京駅一番街」等の駅商業施設のリニューアルに向けた準備や高架下開発を行うなど、競争力、販売力の強化に取り組みました。また、駅構内や駅直結ビル等におけるワークスペース事業「EXPRESS WORK」のさらなる拡充を進めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比4.9%増の373億円、営業利益は前年同期比18.1%増の98億円となりました。

④ その他

ホテル業においては、感染拡大防止に取り組みながら、高品質なサービスの提供に努めたほか、各種事業者と連携した魅力ある客室の提供等により、需要を喚起しました。

旅行業においては、これからの新しい旅として提案している「ずらし旅」と連動し、京都、奈良、東京、飛騨等の各方面へ向けた魅力ある旅行商品を販売したほか、「推し旅アップデート」として各種事業者と協力した新たな観光プランを販売しました。

鉄道車両等製造業においては、鉄道車両や建設機械等の受注・製造に努めました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比9.2%増の1,030億円、営業損失は4億円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比べ862億円増加し、7,056億円となりました。また、長期債務残高は、前連結会計年度末から64億円増加し、4兆9,481億円となりました。

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、1,665億円の資金の増加となりました。前年同期が846億円の資金の減少であったことと比べ、当社の運輸収入が増加したことなどから、2,512億円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、774億円の資金の減少となりました。前年同期が962億円の資金の減少であったことと比べ、資金運用による投資有価証券の償還収入が増加したことなどから、187億円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、28億円の資金の減少となりました。前年同期が1,714億円の資金の増加であったことと比べ、短期社債の償還による支出が増加したことなどから、1,742億円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、営業収益を据え置く一方で、当社の物件費の増等を反映し、以下のとおり各利益を下方修正します。

なお、当業績予想は、今後の新型コロナウイルス感染症の収束状況や経済動向等により、大きく変動する可能性があります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前回発表予想(A) (令和4年4月26日発表)	百万円 1,332,000	百万円 290,000	百万円 217,000	百万円 146,000
今回修正予想(B)	1,332,000	279,000	208,000	141,000
増減額(B-A)	—	△11,000	△9,000	△5,000
増減率(%)	—	△3.8	△4.1	△3.4
(ご参考) 前期実績 (令和4年3月期)	935,139	1,708	△67,299	△51,928

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	331,651	269,428
中央新幹線建設資金管理信託	※1 1,813,068	※1 1,676,711
受取手形、売掛金及び契約資産	54,569	49,678
未収運賃	44,193	62,940
有価証券	328,500	508,600
棚卸資産	34,369	33,910
その他	76,518	81,957
貸倒引当金	△106	△73
流動資産合計	2,682,764	2,683,152
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,354,261	1,321,878
機械装置及び運搬具(純額)	272,900	281,225
土地	2,356,728	2,368,545
建設仮勘定	1,382,891	1,458,395
その他(純額)	40,879	46,740
有形固定資産合計	5,407,662	5,476,785
無形固定資産	142,072	143,342
投資その他の資産		
投資有価証券	772,089	708,010
繰延税金資産	260,389	265,028
その他	186,087	185,112
貸倒引当金	△545	△511
投資その他の資産合計	1,218,020	1,157,641
固定資産合計	6,767,755	6,777,768
資産合計	9,450,519	9,460,921

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和4年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,970	60,806
短期借入金	30,738	31,436
1年内償還予定の社債	—	138,997
1年内返済予定の長期借入金	87,777	62,578
1年内に支払う鉄道施設購入長期未払金	6,529	6,730
未払法人税等	6,409	43,948
賞与引当金	22,493	27,755
その他	507,395	420,885
流動負債合計	737,314	793,137
固定負債		
社債	890,754	761,781
長期借入金	436,642	461,442
中央新幹線建設長期借入金	※1 3,000,000	※1 3,000,000
鉄道施設購入長期未払金	519,988	516,572
新幹線鉄道大規模改修引当金	35,000	17,500
退職給付に係る負債	180,830	182,190
その他	40,736	39,391
固定負債合計	5,103,953	4,978,878
負債合計	5,841,267	5,772,016
純資産の部		
株主資本		
資本金	112,000	112,000
資本剰余金	53,474	53,474
利益剰余金	3,449,334	3,533,479
自己株式	△103,159	△103,159
株主資本合計	3,511,649	3,595,793
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46,912	42,660
繰延ヘッジ損益	—	0
退職給付に係る調整累計額	5,516	4,732
その他の包括利益累計額合計	52,428	47,392
非支配株主持分	45,173	45,718
純資産合計	3,609,252	3,688,904
負債純資産合計	9,450,519	9,460,921

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
営業収益	386,949	634,139
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	345,573	380,597
販売費及び一般管理費	75,479	81,615
営業費合計	421,053	462,212
営業利益又は営業損失(△)	△34,103	171,926
営業外収益		
受取利息	1,234	1,071
受取配当金	2,068	2,526
受取保険金	1,276	101
その他	4,216	2,268
営業外収益合計	8,796	5,968
営業外費用		
支払利息	22,288	22,470
鉄道施設購入長期未払金利息	17,304	17,115
その他	2,190	2,018
営業外費用合計	41,783	41,604
経常利益又は経常損失(△)	△67,090	136,290
特別利益		
工事負担金等受入額	48	364
固定資産売却益	2,400	150
その他	30	17
特別利益合計	2,479	533
特別損失		
固定資産圧縮損	33	228
固定資産除却損	444	603
その他	92	36
特別損失合計	571	868
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△65,182	135,955
法人税等	△21,227	38,405
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△43,955	97,549
非支配株主に帰属する四半期純利益	499	600
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	△44,455	96,949

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△43,955	97,549
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△655	△4,198
繰延ヘッジ損益	—	0
退職給付に係る調整額	△948	△776
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	△26
その他の包括利益合計	△1,617	△5,000
四半期包括利益	△45,572	92,549
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,635	91,913
非支配株主に係る四半期包括利益	62	636

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△65,182	135,955
減価償却費	99,304	106,069
新幹線鉄道大規模改修引当金の増減額(△は減少)	△17,500	△17,500
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△532	135
受取利息及び受取配当金	△3,303	△3,597
支払利息	39,593	39,585
工事負担金等受入額	△48	△364
固定資産圧縮損	33	228
固定資産除却損	1,503	1,754
売上債権の増減額(△は増加)	35,408	△13,966
棚卸資産の増減額(△は増加)	3,426	830
仕入債務の増減額(△は減少)	△13,169	△15,163
その他	△50,579	△27,828
小計	28,955	206,138
利息及び配当金の受取額	3,290	3,588
利息の支払額	△39,458	△39,446
法人税等の支払額	△77,475	△3,755
営業活動によるキャッシュ・フロー	△84,688	166,524
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△15,000	△16,000
定期預金の払戻による収入	15,000	16,000
中央新幹線建設資金管理信託の解約による収入	128,045	136,357
有価証券の取得による支出	—	△35,700
有価証券の償還による収入	—	35,700
有形固定資産の取得による支出	△227,699	△239,803
工事負担金等受入による収入	2,266	1,896
無形固定資産の取得による支出	△4,258	△3,527
投資有価証券の取得による支出	△1	△500
投資有価証券の売却及び償還による収入	31	26,763
その他	5,341	1,339
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96,274	△77,474
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	168	697
短期社債の発行による収入	200,000	200,000
短期社債の償還による支出	—	△200,000
長期借入れによる収入	12,100	34,800
長期借入金の返済による支出	△42,996	△35,199
社債の発行による収入	20,000	10,000
鉄道施設購入長期未払金の支払による支出	△3,026	△3,215
自己株式の売却による収入	336	—
配当金の支払額	△12,805	△12,805
非支配株主への配当金の支払額	△70	△90
その他	△2,302	2,978
財務活動によるキャッシュ・フロー	171,403	△2,835
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△9,559	86,214
現金及び現金同等物の期首残高	719,941	619,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	710,381	705,674

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 中央新幹線の建設の推進のため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より資金を借り入れ、分別管理を目的として信託を設定しています。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて税金費用を計算しています。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道等のご利用が減少しています。新型コロナウイルス感染症の収束時期等を合理的に予想することは困難ですが、新型コロナウイルス感染症の対策が進む中で、社会経済活動が活性化されていくことを考慮して、鉄道事業において、当連結会計年度の第3四半期及び第4四半期におけるご利用の平均が平成30年度比80%程度で推移すると仮定し、会計上の見積りを行っています。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	285,316	41,075	20,328	40,229	386,949	—	386,949
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,720	3,917	15,272	54,143	78,053	△78,053	—
計	290,036	44,992	35,600	94,373	465,003	△78,053	386,949
セグメント利益又は損失(△)	△32,555	△4,922	8,356	△4,172	△33,293	△809	△34,103

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失の調整額△809百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

当第2四半期連結累計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	509,424	59,940	21,615	43,158	634,139	—	634,139
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,093	3,732	15,721	59,903	84,451	△84,451	—
計	514,518	63,672	37,337	103,062	718,590	△84,451	634,139
セグメント利益又は損失(△)	160,547	2,643	9,867	△469	172,588	△662	171,926

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失の調整額△662百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、「ホテル・サービス業」及び「鉄道車両等製造業」について量的基準を満たさなくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しています。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。